

## 認定心理士の会から

### 「認定心理士の会」設立のお知らせ

「認定心理士の会」がスタートしました。今年1月末の常務理事会で会則なども整備され、4月から本格的な活動を開始しています。認定心理士向けの事業は、従来、日本心理学会から半ば独立した組織である日本認定心理士会と日本心理学会が共同で行って来ました。しかし、議論を重ねた末に、こうした事業は日本心理学会として直接、実施していくことが適切であろうという結論に達し、今回、「認定心理士の会」を日本心理学会内部の組織として設立する運びとなりました。

これまでに行われた大きな活動として、5月に東京で「認定心理士の会キックオフシンポジウム」を開催しました。心理学が日常生活や職場などでどのように役立つか、認定心理士が社会にどのように貢献できるか、ということを考える場にしたと思います、「人間社会に貢献する

心理学—その可能性を考える—」というテーマでの開催となりました。告知から開催までの期間を十分にとることができませんでしたが、当日は多くの方がご参加くださり、会員のモチベーションの高さを感じることができました。

また、9月に関西地区でワークショップを開催しました。本会の設立から半年の節目となるこの時期に、どのような企画が適切か、幹事会で検討を重ね、ストレスやメンタルヘルスに関して我が国の第一人者である津田彰先生と菅佐和子先生を講師としてお迎えしました。

認定心理士の会の会員数は、現在では2,600名を超えました。そして会員数は今後ますます増えることが予想されます。この会を利用して、認定心理士間のネットワークを作っていただき、そのつながりを軸に様々な活動を展開していただけたらと思います。ご興味を持たれた認定心理士の方はぜひご入会ください。

(認定心理士の会幹事 高瀬堅吉)

## 若手の会から

### 世界とつながる、そして、ともに歩む

横浜で開催されたICP2016は、準備期間はあんなにも長く感じられたのに、始まってからは、あっという間に時間が過ぎていきました。若手の会では、軽食と飲み物を用意したソーシャルイベントと、若手のキャリア形成についてのワークショップを開催しました。また、若手の会企画シンポでは、台湾およびアメリカ心理学会の若手の会を招いて、それぞれの現状を発表したところ、若手が直面する問題や課題は、文化による多少の差異はあるものの、国を超えて共通するものも多いことを目の当たりにしました。さらに、代表幹事2名は、世界の博士課程の学生とポスドクをICPに招待するEmerging Psychologists' Program (EPP) にも関わり、企画段階から国際学会における若手育成の重要性を肌で感じる事ができました。

それらのプログラムを通して強く感じたのが、世界の若手たちの意識の高さです。例え

ば、自分が持つ役割や影響力をしっかりと考えていたり、EPPでの出会いをきっかけに共同研究を始めようとしていたりする若手たちと交流していると、広い世界に触れ、多様な価値観を知ることの大切さを心の底から感じました。

心理学は、社会に幅広く役立てる学問です。世界が近くなり、互いに手を取り合って解決すべき問題が増え続ける中で、日本で心理学に関わる若手たちも、広い視野を身につけることが今まで以上に求められています。今後、ますます心理学が国際化していく中で、色々な場所で生み出された心理学がさらに輸出入されていくことが予想されます。その際、それらの心理学を育んだ文脈を知り、日本の文化的背景や社会的状況を考慮しながら社会に応用していくことが重要になるでしょう。このような状況の下、日本の若手たちがホストとして国際学会に関わったことは、今後の私たちのキャリアの中でも大きな意味を持つのではないのでしょうか。

(若手の会代表幹事 小川健二・鈴木華子)